

# 来て、住んで、語って“ひろの”

(提言先: 広野町)

Cグループ  
(鈴木、遠藤、村上、羽角、新妻 / 計5名)

令和6年度政策形成実践研修  
(短期集中研究会: 10月10日~11月19日)



来て、住んで、語って“ひろの” 事業

17,500千円

Cグループ

## 背景

- ・震災を契機として、人口減少・少子高齢化に歯止めがかからない状況。
- ・町全体としてのコミュニティ意識が希薄化している。
- ・移住・定住の促進に向けた取り組みに力を入れているが、自治体間の競争が激しく、町の魅力の掘り起こしと発信に課題。
- ・家族が居住できる住宅が不足している。

## 目的

- ・町民同士の対話を通じて、コミュニティ意識やシビックプライドの醸成を図る。
- ・企業や町民と連携して、地域資源の掘り起こしを図るとともに、ふるさと納税の返礼品を通して、町外への発信を行う。
- ・町が空き家の借り受け、貸し出すことで、移住希望者やデュアルライフ希望者に対応する。

## 事業概要

【1】「来て」プロジェクト (5,000千円)  
/ 交流人口増加

### 内容

ふるさと納税の返礼品に体験型コンテンツを加えて、広野町の特別な体験を寄附者に提供する。

シビックプライドの醸成

地域活性化

【2】「住んで」プロジェクト (10,000千円)  
/ 遊休資産(空き家)活用、移住・定住促進

### 内容

広野町で空き家を一時的に(5年~10年程度)借り受け、電気・水道等の最低限のリノベーションをした上で、移住希望者にお試し移住住宅として転貸する。賃貸期間は最低1週間~最大6ヵ月で、その後、定住希望のため継続の場合は役場・空き家所有者と相談の上、賃貸・購入も可能とする。

交流人口の増加



## 事業効果

交流・関係人口の増加  
と  
シビックプライドの醸成


【3】「語って」プロジェクト (2,500千円) / シビックプライド醸成、コミュニティデザイン

### 内容

広野町で活動する100人を起点に人と人とをゆるやかにつなぎ、町のあり方や価値の再発見、多様なコミュニティづくりを目的とした“ひろの100人カイギ”という対話ワークショップを実施する。



※シビックプライドとは…地域や自治体に対する誇りや愛着、地域社会貢献意識



## 目次

---

1. 事業目的
2. 実地調査(フィールドワーク)
3. まちの現状と課題
4. 事業概要
5. スケジュール・予算
6. まとめ

3



## 事業目的

4




## 事業目的

---

震災後、拍車を掛ける人口減少・少子高齢化とコミュニティ意識の希薄化

『**交流・関係人口の増加**とシビックプライドの醸成を図る』

5



## 実地調査(フィールドワーク)

---

6

# 実地調査(フィールドワーク) / 広野町役場

## ●復興企画課

- ・ 町民の帰還および移住定住促進
  - ・ 各市町村で移住定住施策の“差別化が難しい”
  - ・ 単身世帯向けの住居は多いが、世帯向けの住居はほとんどない
  - ・ **空き家バンクがなく、市場に出てきづらい**
  - ・ 人材不足傾向にあり、復興予算を上手く使い切れていない
- ⇒官民連携による”町の魅力発信に課題”

全国から延べ670の自治体・団体が大集合!  
国内最大級の移住相談イベント

初日の2日間開催

第20回 **ふるさと回帰フェア2024**

マルシェも出店!

人生を変える地方との出会い!  
あなたのマイライフスタイルを考える2日間

9/21土 22日  
10:00-16:30

東京国際フォーラム ホールE / ロビーギャラリー

入場料無料 入退場自由 事前登録可

全国から延べ670の自治体・団体が大集合!  
国内最大級の移住相談イベント

第20回 **ふるさと回帰フェア2024**

9月21日(土)-22日(日)開催 出展一覧

自治体・団体名	担当
阿久保町	町長 杉山 浩一
阿久根町	町長 佐藤 隆夫
阿曇郡	町長 佐藤 隆夫
阿部町	町長 佐藤 隆夫
阿波郡	町長 佐藤 隆夫
阿波高松市	市長 佐藤 隆夫
阿波市	市長 佐藤 隆夫
阿波大島町	町長 佐藤 隆夫
阿波高松市	市長 佐藤 隆夫
阿波市	市長 佐藤 隆夫
阿波大島町	町長 佐藤 隆夫
阿波高松市	市長 佐藤 隆夫
阿波市	市長 佐藤 隆夫
阿波大島町	町長 佐藤 隆夫
阿波高松市	市長 佐藤 隆夫
阿波市	市長 佐藤 隆夫
阿波大島町	町長 佐藤 隆夫
阿波高松市	市長 佐藤 隆夫
阿波市	市長 佐藤 隆夫

※出展リストは省略されています。

東京で行われる一回のイベントに全国から延べ670の自治体・団体が参加

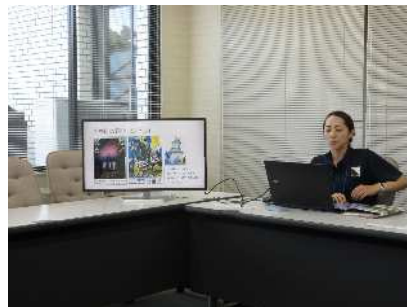
## 実地調査(フィールドワーク) / 広野町役場(産業振興課)

### ●産業振興課

- 新しい試み(FMXショー・アートイベントなど)
- 働き口(東電関係・工業団地)は多いが就職希望者は少ない
- ふるさと納税の返礼品(特産品)が少ない



(広野町ホームページより引用)



(広野町フィールドワーク時撮影)

9

## 実地調査(フィールドワーク) / 広野振興公社

### ●広野町振興公社

- 心の復興として、“バナナ栽培 🍌”
- ふるさとに対する“愛着・希望”が大事
- どう生業を作り、町を維持・発展していくか
- 8町村の“広域連携”の重要性



(復興庁ホームページより引用)



(広野町フィールドワーク時撮影)

10

## 実地調査(フィールドワーク) / ぷらっとあっと

- 住んで良かったと思える“シビックプライド”が大事
- 広野町を誇りに思えていない町民が多い
- 住民主体のまちづくり(やりたいこと/チャレンジ)を応援
- 広野のありのままを見せる(良い・悪い)



(広野町フィールドワーク時撮影)



(広野町ホームページより引用)

11

## まちの現状と課題

12

## まちの現状・課題

### ○ふるさと納税額が県内ワースト3位(2023年度)で自主獲得財源が少ない

現状 ⇒ 人口減少・少子高齢化、復興財源の縮小などによる**収収の悪化**が予想され、**地域維持が難しくなる可能性**がある。

課題 ⇒ 広野町のふるさと納税返礼品は種類が少なく、寄付金を集めづらい状況にある。

福島県ランキング一覧（2023年度・総務省調べ）

自治体	福島県	全国順位	ふるさと納税額
：			
浅川町	56位	1741位	314.4万円
中島村	57位	1745位	298.2万円
<b>広野町</b>	<b>58位</b>	<b>1746位</b>	<b>285.5万円</b>
昭和村	59位	1750位	240.5万円
平田村	60位	1771位	46.9万円

13

## まちの現状・課題

### ○震災を契機として、人口減少・少子高齢化に歯止めがかからない状況

⇒ 移住・定住施策を行っているが、差別化が難しい

■ 総人口及び年齢3区分人口の推移

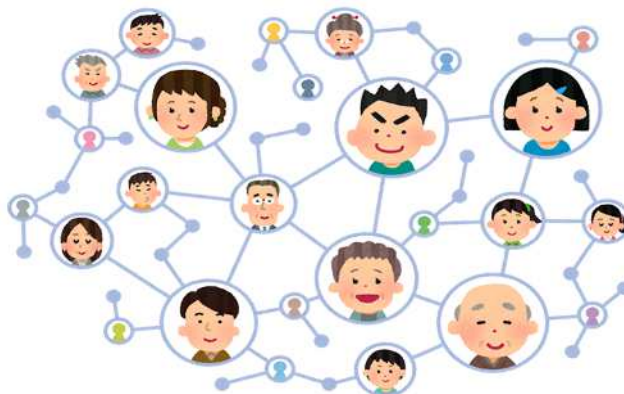


(出典) 住民基本台帳 (各年2月末日時点)  
 広野町まち・ひと・しごと創生 総合戦略(第二期)より引用

14

## まちの現状・課題

○震災の影響により、**地域コミュニティ・シビックプライドが希薄化している**  
⇒振興公社がまちづくり会社の役割を担っているが、他市町村と比べ、自立したまちづくり会社がなく、行政に依らない住民主導の協働のまちづくりが思うように進んでいない。  
また、それにより地域資源(ヒト・モノ)が埋もれている。



15

## 事業概要

16



## ①「来て」プロジェクト / 交流人口増加

### <事業主体>

広野町役場(産業振興課)・広野町観光協会

### <事業対象>

広野町外在住者

### <事業内容>

- ふるさと納税の返礼品に**体験型返礼品を充実**にさせる。
- 広野町の特別な体験を寄付者に提供することで**“交流・関係人口”の増加**を目指す。
- **企業や町民と連携した商品開発により、地域活性化を図る。**



### 体験コンテンツ(例)

みかん・バナナ収穫体験、サッカー選手体験、地元民によるガイドツアー、とんぼのめがね米作り(稲作)体験、高倉山・五社山トレッキング、浅見川SUP体験…etc.

17

## ②「住んで」プロジェクト / 関係人口増加

### <事業主体>

広野町役場(復興企画課)  
まちづくり会社・不動産業者

### <事業対象>

空き家所有者、移住・定住希望者



### <事業内容>

- 移住検討者(夫婦・子育て世帯中心)向けの**入居可能物件を整備**する。
- 広野町役場で空き家を**一時的に(5年~10年程度)借り受け**、電気・水道等の最低限のリノベーションをした上で、**移住希望者にお試し移住住宅として転貸**する。
- **賃貸期間は最低1週間~最大6ヵ月**で、その後、定住意志があれば役場・空き家所有者と相談の上、**賃貸・購入も可能**とする。
- 改修費用は役場が負担をし、**賃貸収入・補助金活用**によって経費を回収する。

18

### ③「語って」プロジェクト / シビックプライド醸成

#### <事業主体>

広野わいわいプロジェクト(民間団体)  
広野町役場(復興企画課)

#### <事業対象>

広野町民、地元企業、関係・交流人口



#### <事業内容>

- ・町の価値再発見、多様なコミュニティ形成を目的とした対話ワークショップを実施。
- ・広野町で活動するゲストを毎回5名呼び、参加者同士がゆるやかにつながる。
- ・ゲスト招待人数が合計100名に達したら解散する。
- ・百人百様の暮らしに触れることで、いつもとは少し違った地元が見えてくる。

19

### 事業概要 / 現行事業比較

○町ふるさと納税寄付額は2023年度285万円という状況で、返礼品はコシヒカリ、西シェフ監修ハンバーグカレーなどで、選択肢が少ない。(総務省ホームページより)

○町営住宅/アパートなどは単身世帯や地元民向けで応募資格要件や費用面などが移住希望者には厳しく、また、福島県復興公営住宅の間取りなどは夫婦・子育て世帯向けであるものの、入居要件が避難者対象となっているため、同様に厳しい。(町・県ホームページより)

○空き家は増加傾向にあるものの、賃貸借希望で出てくる物件数は少ない。移住検討者が広野で住まいを探すことが難しくなっている。(フィールドワーク調査より)

20

## 他自治体導入事例

### 【1】「来て」プロジェクト

- ・ 長崎県南島原市…  
民泊とふるさと納税の  
体験型返礼品を活用した観光施策。
- ・ 岩手県釜石市…  
かまいしDMCと協働で、現地のなりわいを体験。



(農泊サイト/nouhaku.netより引用)



(じゃらん農山漁村ツーリズムより引用)

21

## 他自治体導入事例

### 【2】「住んで」プロジェクト

- ・ 高知県梶原町…空き家をリフォームし、貸し出す。  
移住希望者が求める「すぐ住める家」を実現。
- ・ 岩手県紫波町…リノベーションまちづくり / 公民連携による空き家活用。



22

## 他自治体導入事例

### 【3】「語って」プロジェクト

- ・ 福島県郡山市…郡山100人カイギ/町の在り方、価値の再発見を目的とするワークショップ



(100人会議ホームページより引用)



(100人会議ホームページより引用)

23

## 事業効果

### 【1】「来て」プロジェクト

- ・ 地域資源の掘り起こし。
- ・ 町民協働によるシビックプライドの醸成。
- ・ ふるさと納税件数、寄付額の増加。
- ・ 来て体験してもらうことで、関係交流人口の拡大。



(復興庁ホームページより引用)

### 【2】「住んで」プロジェクト

- ・ 人口の社会増(特に一般世帯の増加)。
- ・ すぐ住めることで移住機会損失の抑制。



(広野町役場ホームページより引用)

### 【3】「語って」プロジェクト

- ・ 地域コミュニティの活性化。
- ・ 町の価値を再発見することによるシビックプライドの育成。

24

## 事業成果目標(KPI)

### 【1】「来て」プロジェクト

ふるさと納税申込増加件数300件、申込金額1,200万円

### 【2】「住んで」プロジェクト

空き家改修件数3件、入居申し込み件数3件、住居購入件数2件

### 【3】「語って」プロジェクト

イベント開催回数20回、イベント参加人数20人(各回)、参加満足度70%以上

※上記プロジェクトの検証方法は、申し込み実績やアンケート調査により実施



最終目標数値 移住者年間30人

25

## スケジュール・予算

26

## 事業スケジュール

プロジェクト名	令和6年度	令和7年度
「来て」プロジェクト	12月 現地調査	4月 事務局設立 6月 事業開始 9月以降 次年度の実施に向けた磨き上げ
「住んで」プロジェクト	12月 現地調査	4月 空き家の募集 5月～9月 電気・水道等リノベーション 8月 住居希望者募集開始 10月 居住開始
「語って」プロジェクト	12月 現地調査	2月 住民説明 3月 参加者募集 4月 事業開始

27

## 全体予算(1750万円)

### 【1】「来て」プロジェクト (500万円)

#### 費用

・企画開発/運営費 500万円

#### 財源

・一般財源  
・ふるさと納税寄付金  
(4万円×300件の寄付を見込む)

### 【2】「住んで」プロジェクト (1,000万円)

#### 費用

・住居改修費 900万円  
(300万円×3軒)  
・広報販促費 50万円  
・諸経費(備品購入等) 50万円

#### 財源

・移住定住関連予算(復興庁)  
・福島再生加速化交付金  
(帰還・移住等環境整備)  
・賃貸収入 36万円  
(2万円×3件×6ヶ月)

### 【3】「語って」プロジェクト (250万円)

#### 費用

・コーディネート費 100万円  
・ゲスト謝礼費 100万円  
(1万円×5人(ゲスト)×20回)  
・広報販促費 40万円  
・諸経費(備品購入等) 10万円

#### 財源

・一般財源

28

## 事業費用(各プロジェクト)

### 【1】「来て」プロジェクト(500万円)

#### 費用

- ・企画開発/運営費 500万円

#### 財源

- ・一般財源
- ・ふるさと納税寄付金(4万円×300件の寄付を見込む)

29

## 事業費用(各プロジェクト)

### 【2】「住んで」プロジェクト(1,000万円)

#### 費用

- ・住居改修費 900万円(300万円×3軒)
- ・広報販促費 50万円
- ・諸経費(備品購入等) 50万円

#### 財源

- ・移住定住関連予算(復興庁)
- ・福島再生加速化交付金(帰還・移住等環境整備)
- ・賃貸収入 36万円(2万円×3件×6ヶ月)

30

## 事業費用(各プロジェクト)

### 【3】「語って」プロジェクト(250万円)

#### 費用

- コーディネート費 100万円
- ゲスト謝礼費 100万円(1万円×5人(ゲスト)×20回)
- 広報販促費 40万円
- 諸経費(備品購入等) 10万円

#### 財源

- 一般財源

31

## まとめ

32



来て、住んで、語って“ひろの”事業17,500千円〇グループ

**背景**

- ・震災を契機として、人口減少・少子高齢化に歯止めがかからない状況。
- ・町全体としてのコミュニティ意識が希薄化している。
- ・移住・定住の促進に向けた取り組みに力を入れているが、自治体間の競争が激しく、町の魅力の掘り起こしと発信に課題。
- ・家族が居住できる住宅が不足している。

**目的**

- ・町民同士の対話を通して、コミュニティ意識やシビックプライドの醸成を図る。
- ・企業や町民と連携して、地域資源の掘り起こしを図るとともに、ふるさと納税の返礼品を通じて、町外への発信を行う。
- ・町が空き家の借り受け、貸し出すことで、移住希望者やデュアルライフ希望者に対応する。

**事業概要**

<p><b>【1】「来て」プロジェクト (5,000千円)</b> / 交流人口増加</p> <p><b>内容</b></p> <p>ふるさと納税の返礼品に体験型コンテンツを加えて、広野町の特別な体験を寄付者に提供する。</p>	<p><b>【2】「住んで」プロジェクト (10,000千円)</b> / 遊休資産(空き家)活用、移住・定住促進</p> <p><b>内容</b></p> <p>広野町で空き家を一時的に(5年~10年程度)借り受け、電気・水道等の最低限のリノベーションをした上で、移住希望者にお試し移住住宅として転貸する。賃貸期間は最低1週間~最大6ヵ月で、その後、定住希望のため継続の場合は役場・空き家所有者と相談の上、賃貸・購入も可能とする。</p>	<p><b>事業効果</b></p> <p style="color: red; font-weight: bold;">交流・関係人口の増加 と シビックプライドの醸成</p>
<p>シビックプライドの醸成 ← 地域活性化 ← 交流人口の増加</p>		
<p><b>【3】「語って」プロジェクト (2,500千円)</b> / シビックプライド醸成、コミュニティデザイン</p> <p><b>内容</b></p> <p>広野町で活動する100人を起点に人と人とをゆるやかにつなぎ、町のあり方や価値の再発見、多様なコミュニティづくりを目的とした“ひろの100人カイギ”という対話ワークショップを実施する。</p>		

※シビックプライドとは…地域や自治体に対する誇りや愛着、地域社会貢献意識

33